

持続的な農業の営みが育む 美しい農村景観と多様な生態系

稲作とともに形成されてきた日本人の原風景



日本は農業が園芸として営まれている。

即ち、種を蒔くだけで放っておく粗放農業ではなく、農書に基づいたしっかりとしたケアをしている。

これは庭のごとき農業、ホーティーカルチャーだ。

…(江戸を評して)ヨーロッパには、これに匹敵するほどの美しさを誇りうる都市はない。

ラザフォード・オールコック『大君の都 幕末日本滞在記』幕末期のイギリスの外交官



写真:岐阜県白川郷

美しい農村景観は、持続的な農業の営みにより守られています

人々の価値観が多様化し、求めるものも経済的な充実から心の豊かさの向上へと変化してきており、豊かな自然や美しい景観といった農村の魅力が再認識されてきています。河川などから農業用水を引き、水田を作り、そこに人が定住し、持続的に農業を営むことで、農作物を供給するとともに、水と緑が美しい農村の景観が生み出され守られています。



写真:砺波平野(散居村)

農業の営みによる人と自然のつながりによって多様な生態系が形成されています

農業の営みを通じた「人の自然に対する持続的な働きかけ」により長い歴史の中で形成された循環を基調とする二次的自然である農村環境は、多様な生態系を形成しています。農業の営みには、農地と水の存在が必要不可欠です。水を循環して行う水田を中心とする農業は、多様な生物の産卵や活動場所となっています。こうした水の循環を守ることとなる農地や農業水利施設を維持してきた農家を中心とする農村コミュニティが、多様な生態系も保全してきたといえます。

農村の豊かな生態系のイメージ

絶滅危惧II類 タガメ



(財)自然環境研究センター

絶滅危惧II類 メダカ



(滋賀県立琵琶湖博物館)

